

各関係機関長 殿
病虫害防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病虫害防除所長
(公印省略)

平成25年度農作物病虫害発生予察情報について

平成25年度農作物病虫害発生予報第11号を発表したので送付します。

平成25年度農作物病虫害発生予報第11号

平成25年12月2日
徳島県

I. 野菜

冬春トマト

疫病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 11月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期も未発生)。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 窒素質肥料を過用すると茎葉が軟弱となり発生しやすくなるので、肥培管理に注意する。

(2) 多湿環境は発病を著しく助長するので、施設内が過湿にならないように十分に換気を行なう。

(3) 罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く摘み取って、ハウス外で処分する。

(4) 病原菌は気孔から侵入するので、薬剤散布は気孔の多い葉の裏側を重点的に行なう。特に、下葉には丁寧に散布する。

(5) 病原菌が侵入してからごく短期間で発病するので、発生を認めたら散布間隔を短縮して、集中的に薬剤散布を行なう。

コナジラミ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 11月後半の巡回調査では、発生圃場率が70.0%であり、平年(33.4%)よりやや高めの発生であるが、寄生葉率は5.0%であり、平年(4.8%)並の発生である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。薬液は葉裏にも十分に付着するように丁寧に散布する。

冬春ナス

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で,発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 11月後半の巡回調査では,発生圃場率が14.3%,発病葉率が0.1%であり,ほぼ平年(10.6%,0.7%)並の発生である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生が多くなってからでは防除が困難になるので,初期防除に努める。
- (2) 罹病葉は早期に圃場外に持ち出し,病原菌密度の低下に努める。
- (3) 耐性菌出現の恐れがあるので,同一系統薬剤の連用は避ける。

すすかび病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で,発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 11月後半の巡回調査では,発生圃場率が42.9%であり,平年(13.6%)よりやや高めの発生であるが,発病葉率は0.7%であり,ほぼ平年(1.2%)並の発生である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 罹病葉は伝染源になるので,できるだけ早く摘み取って,ハウス外で処分する。
- (2) 発生が多くなると防除が困難になるので,初期防除に努める。薬液は下葉の葉裏にも充分付着するように丁寧に散布する。
- (3) 耐性菌出現の恐れがあるので,同一系統薬剤の連用は避ける。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で,発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 11月後半の巡回調査では,発生を認めていない(平年同時期も未発生)。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので,初期防除に努める。アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので,薬液は葉裏にも充分付着するように丁寧に散布する。

タバココナジラミ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で,発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 11月後半の巡回調査では,発生圃場率が57.1%であり,平年(5.6%)よりやや高めの発生であるが,寄生葉率は1.7%であり,平年(1.9%)並の発生である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので,初期防除に努める。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で,発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 11月後半の巡回調査では,発生を認めていない(平年同時期も未発生)。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので,初期防除に努める。ハダニ類はほとんど葉裏に寄生しているので,薬液は葉裏にも充分付着するように丁寧に散布する。

ミナミキイロアザミウマ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

(1) 11月後半の巡回調査では、発生圃場率は85.7%、寄生葉率は10.3%、被害果率 3.3%であり、ほぼ平年(62.7%, 8.6%, 0.6%)並の発生である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

アブラナ科野菜共通

黒腐病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 11月前半の巡回調査では、発生圃場率は31.6%、発病度 0.8であり、ほぼ平年(30.7%, 1.9)並の発生である。

(2) 11月29日発表の1か月予報では、平年と同様に晴れの日が多い見込みとされている。また、気温は平年並または低く、降水量は平年並または少なく、日照時間は平年並または多いと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除効果が見られなくなるので、発病前から定期的に薬剤を散布して予防する。特に強風雨の後にはできるだけ速やかに薬剤散布を行なう。

(2) 害虫による食害痕も病原菌の侵入口となるので、害虫の防除も確実にこなう。

(3) 被害残渣は圃場外に持ち出し、適切に処分する。

コナガ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 11月前半のキャベツ、ブロッコリー、カリフラワーの巡回調査では、発生圃場率が26.3%、10株当たり幼虫及び蛹数が0.1頭であり、ほぼ平年(11.7%, 0.1頭)並の発生である。

(2) 11月29日発表の1か月予報では、平年と同様に晴れの日が多い見込みとされている。また、気温は平年並または低く、降水量は平年並または少なく、日照時間は平年並または多いと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。葉裏に生息しているので、薬液は葉裏にも充分付着するように丁寧に散布する。

(2) 薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

冬春ホウレンソウ

べと病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 11月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が 8.3%、発病度が 0.2)。

(2) 11月29日発表の1か月予報では、平年と同様に晴れの日が多い見込みとされている。また、気温は平年並または低く、降水量は平年並または少なく、日照時間は平年並または多いと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 昨年、県内ではべと病菌レース8による発病が確認されたので、レース8抵抗性品種を利用する。作型等の関係で作付けできない場合には、薬剤による防除を徹底する。
- (2) 平均気温が8～18℃で曇雨天が続くと、多発しやすい。発生が多くなると防除が困難になるので初期防除に努める。薬剤は予防的に、また下葉や葉裏にもよくかかるように丁寧に散布する。
- (3) 罹病株を圃場に放置すると伝染源になるので、発病株は見つけ次第抜き取って速やかに処分する。
- (4) 葉が繁茂して軟弱になると被害が多くなるので、肥培管理に注意する。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 11月後半の巡回調査では、発生圃場率は9.1%、寄生程度指数は0.1であり、平年(32.3%, 0.9)と比べてやや低めの発生である。
- (2) 11月29日発表の1か月予報では、平年と同様に晴れの日が多い見込みとされている。また、気温は平年並または低く、降水量は平年並または少なく、日照時間は平年並または多いと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。
- (3) アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので、薬剤が葉裏にも充分付着するように丁寧に散布する。

冬春イチゴ

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 11月後半の巡回調査では、発生圃場率が14.3%、発病葉率が0.2%であり、ほぼ平年(8.1%, 0.4%)並の発生である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生が多くなってからでは防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 罹病葉は伝染源になるので、見つけ次第圃場外に持ち出し、病原菌密度の低下に努める。
- (3) 古葉は早めに除去し、薬剤が葉裏に充分かかるように丁寧に散布する。
- (4) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。
- (5) 展着剤は規定範囲内で多めに加用する。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 11月後半の巡回調査では、発生圃場率が35.7%、寄生株率が1.7%であり、ほぼ平年(29.5%, 4.3%)並の発生である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。
- (3) アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので、薬剤が葉裏にも充分付着するように丁寧に散布する。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い), 発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 11月後半の巡回調査では、発生圃場率が85.7%, 寄生葉率が9.6%であり、平年(38.8%, 5.3%)よりやや高めの発生である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) ハダニ類は葉裏に寄生しているので、薬剤が葉裏にも充分付着するように丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

II. その他

- 薬剤の使用にあたっては、必ず農薬ラベルの記載事項を遵守して下さい。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病虫害防除所
U R L : <http://www.pref.tokushima.jp/tafftsc/t-boujyosyo/>

○病虫害の発生予察情報, 発生状況, 防除法等をお知らせしています。